

踏まね踏まれても生き返る

いたばし雑草通信

NO.3 2024.5.6

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。PDFでお送りします。

実るほど頭(こいべ)を垂れるイネ科かな



正確には「稲穂かな」となるのですが、経験や努力を重ねて、人間として大きくなった人ほど謙虚になるということわざです。

イネ科の花は花らしい形をしておらず、緑色の小さな殻のようなものの中に雄蕊と雌蕊がしまっています。それがたくさん集まっているのを小穂(しょうすい)というのですが、稲ばかりでなくイネ科の花の特徴です(ただしNo1で紹介したアズマネザサなどの竹の仲間は幹が木質化して直立し、花は小穂にならない)。左の写真は**イヌムギ**。その下の写真は**カモジグサ**。小穂から雄蕊(おしべ)が飛び出してきて花粉をまき散らし、ただいま交配中。

イネ科の品格ももっていない国会議員

このようにして実りが進んでいくごとに小穂がお辞儀をするようになるのですが、それを人間にあてはめたのが冒頭のことわざ。取材の記者に向かって「バカヤロー」と言った長老国会議員がいましたが、ぜひ、イネ科の植物を見習ってほしいものです。

スズメノカタビラの実をついばむ鳩

3段目の写真の左は**スズメノカタビラ**。ものすごく小さいのですがこれもイネ科植物。もう実になっているのでしょう。鳩がやってきて一生懸命にこの小穂をくわえていました。大柄のイヌムギ

で名前に「イヌ」がつくほどですから「食べられない」(実の中でんぷん質の量が少なすぎて、人間が食べて得るエネルギーよりも収穫→脱穀→精製のために消費するエネルギーの方が大きいので「食べられない」となる)のですが、鳩はそれでも一日中、食べ続けて生きているわけです。すごいな。



「秋の引っ付き虫」

センダングサ キク科



写真は舌状花(ぜつじょうか=舌のように突き出した花びら)がないので正確には**コセンダングサ**です。実が衣服にくっつく「引っ付き虫」の代表格です。春のヤエムグラに対して、センダングサ類は秋の引っ付き虫なのですが、春も開花するようになりました。前ページのイヌムギは2、3年前から年に何回も生えかわって開花・結実を繰り返す通年開花になっていますが、これもその仲間に入ったのかも？

このようにして裏金は「生き物」になった

自民党の裏金問題は、なんとなく政治資金規正法の改正で収まりそうです。もともと、政治団体が政治活動を行うためにお金を集める行為は、それを適正に処理していれば問題ないはずなのに、公表できないお金として隠してきたのには本当にパーティー売上の予定超過分だったのか、あるいはお金の出所は世間には言えないようなとんでもない所からではなかったのかとの疑惑は尽きないのですが、自民党の特に安倍派のみなさんは全員、口をそろえて「知りません」「分かりません」。となると、総額6億円を超えるとされるあのお金は、一万円札に手と足が生えて、自分で勝手に議員の懐に飛び込んでいったと考えるほかありません。

お金は主に化学処理されたパルプで作られているかWEB決済のように電子化された状態で存在していて、いわゆる無生物。でも、無生物ならば一般的に生物の特徴とされている**①自己増殖能力、②エネルギー変換能力、③自己と外界**

との明確な隔離などの特徴を持っていないはずなのに、①については、**そのままにしていたらどんどん増える**、②に関しては、何に使われたかは分からないけれど**政治力に変換していたはず**、③は派閥の親分が「知らない」というのなら**親分とは隔離された存在**。ということで、自民党の裏金さんたちはまさに「生き物」になったと考えるほかありません。

昔、『遠野物語』を著した柳田國男や『ゲゲゲの鬼太郎』を描いた水木しげるたちが全国の農山漁村をめぐるって収集した「妖怪伝説」も、このような現世に起こる複雑怪奇魑魅魍魎(ふくざつかいきちみもうりょう)が戯画化されて伝わってきたのかもしれないね。

植物観察でもこの妖怪・札タバーンに出会って見たいものですが、触らない方が無難です。

妖怪 札タバーン

天からの声

裏金なんだから表を見せるなよ〜

黙れ！な！
しゃ黙れ！

